

私は、2017年10月の一か月間五戸総合病院において研修させていただきました。大阪を出発した頃は、まだ半袖の洋服を身につけており、三沢空港に到着した際はあまりの寒さに驚いたことを覚えています。三沢空港より路線バスで本八戸、本八戸から八戸と乗り継ぎ1時間程度かけて五総合病院町に到着しました。到着してまず感じたのは、想像していたよりもずっと大きい病院だということでした。人口2万人ほどの五戸町で唯一の総合病院であり、この地域の医療を一身に担っているのだと感じました。

到着翌日より外科での研修が開始し、院長先生の元で手術、病棟、外来、検査、健診、検死など様々な業務に携わらせていただきました。普段研修している大学病院では医師の数が多くこともあり、私たち研修医が手術や外来などに深く関わるに機会は多くありません。今回の研修では、特に手術や外来で積極的に参加させていただくことができ、自分が医師であるという自覚と責任を再認識することができました。全身麻酔による手術では悪性腫瘍や胆石症の予定手術や虫垂炎、消化管穿孔などの緊急手術、局所麻酔では粉瘤や尿管管遺残に対する手術など様々な症例を経験することができました。中でも、人工肛門閉鎖術を執刀させていただき、手術に関する細かな手技や術後の管理について非常に勉強になりました。外来では、主に初診の患者様の診察をさせていただき、虫さされや深爪、粉瘤など大学病院では経験できないコモンな症例を経験することができました。

今回携わらせていただいた全ての業務で感じたことは、人の温かさでした。患者様から「先生のおかげで元気に過ごさせていただいています。」「先生、もう大阪に帰るの。もう青森にずっといたらいいのに。」などの声をかけていただき、自分は必要とされていると実感しました。患者様を初めとして院長先生や他科の先生方、看護師の方々、その他医療スタッフの皆様方、事務の方々が温かく見守ってくださり、医師としても人間としても成長できる機会となりました。今回学んだことを糧として、日々精進していきたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重な経験を与えてくださった五戸町の皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。